

令和 8 年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立言問小学校
校長名	中嶋 保徳

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・学校全体で DE 層が 32.5%から 29%へ若干減少し、概ね全国平均正答率を概ね上回っており、基礎的な学習内容の定着が一定程度図られている。 ・低学年における学力が安定してきており、区平均正答率との差も昨年度より大幅に改善された。 ・5 年生は目標値・全国値ともに上回っている。6 年生も国語と算数については平均正答率が全国とほぼ同水準となった。	・高学年に向けて DE 層の割合が高く、対し C 層が少ない傾向がある。B 層が最も多く、ついで D 層が多いという学力層の二極化が見られる。 ・高学年の理科・社会では共通して、「知識・技能」、「思考・判断・表現」が低い傾向がある。 ・英語は読むこと以外のすべての項目で全国平均を下回った。ここ数年全国平均と同水準もしくは全国平均以下で推移している。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・総合 i スコアは令和 7 年度 3.20 より令和 8 年度 3.22 上昇。 ・家族の支えは 3.55 から 3.59、友達の支えは 3.27 から 3.34 へ上昇した。 ・対人ストレスは 3.04 (昨年度 3.01、令和 5 年度 2.78)、対話・話し合い 3.31 (昨年度 3.31、令和 5 年度 3.28) と継続的に上昇し安定している。	・学習意欲は昨年度同様 3.22 高水準の反面、学習習慣は令和 8 年度 2.77 であり低い水準を維持している。 ・発信力は 2.80 (昨年度 2.78) で低位にある。学習において自分の考えの発信に際し、根拠を明確にすることや筋道を立てて論述することに苦手さを感じている児童が多い。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・学習規律や学級の人間関係、コミュニケーションが良好になることにより学習意欲や学力に改善が見られた。 ・校内研究や日常の授業改善により、自分の考えを記述したり、友達に説明したりする活動が定着してきている。	・D、E 層について、学習意欲の低さや学習習慣の定着が身に付いていない様子が見られる。 ・学習の振り返りが感想で留まっている児童が一定程度いる。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 振り返りを生かした基礎学力の定着と学習意欲の向上

・学習の見通しと振り返りをつなぐ授業展開

授業の始めに、児童が学習の目的、既習事項、解決方法を確認し、学習の見通しをもてるようにする。授業後は「何が分かったか」「どの方法が役立ったか」「次に何をするか」の観点で振り返ることを通して、目標をもって取り組むことの大切さを実感させ、学習意欲の向上を図る。

・誤答や無答を逃さない、短時間・高頻度の再学習による基礎学力の定着

漢字、語句、計算、単位、資料の読み取り等を、朝学習、授業の始め、家庭学習で繰り返す。誤りを「知識」「読み取り」「方法」「表現」に分類し、単元後にも期間を空けて再確認する。できた、分かったを実感させることを通して、一人一人が学習することの意味を自覚できるようにする。

(2) 各層に応じた個別指導の充実による学習における自己効力感の向上

・D・E層を中層に高める個別最適な指導の充実

小単元ごとに理解状況を確認し、D・E層の児童には内容を小さな段階に分けた教材、問題数を調整したプリント、ICT教材を活用する。授業中、朝学習、放課後等に直接指導する機会を設定し、学年会で支援の実施状況と変容を毎月共有する。高学年は、学力低下と学習習慣、自信、学級適応の低下が重なる児童を早期に把握し、組織的に支援する。

・達成感と挑戦意欲を高める評価と課題設定

正誤だけでなく、考え方、努力、修正、再挑戦の過程を具体的に評価する。基礎を身に付けた児童には発展課題や複数の解決方法を考える課題を設定する。児童が自分に合った課題を選び、できるようになったことと次の課題を記録することで、成功体験と挑戦意欲を高める。

(3) 根拠を明確にして説明・記述する力の向上

・単元計画において発信・説明・記述する活動に重点を置いた指導の展開

全教科で「結論－根拠－説明」を基本の型とし、本文、資料、式、図、実験結果等を根拠として考えを書く活動を設定する。発言前に個人で考えを整理し、ペア、小集団、全体へ段階的に発信する。無答を減らすため、途中式、根拠候補、部分的な考えも書けるよう段階的支援を行う。

・対話と相互評価を生かした考えの再構成

友達の考えとの共通点・相違点・根拠を整理し、質問や言い換えを行う。話し合い後には、取り入れた考え、変わった考え、残った疑問を書かせる。説明の分かりやすさと根拠の適切さを相互評価し、対話の実施から、対話によって考えを更新する授業へ転換する。

3 「令和9年度 墨田区学習状況調査」の目標

- ・すべての学年・教科で、平均正答率を全国平均以上にする。
- ・すべての学年・教科（特に高学年）におけるD・E層の割合を30%以下にする。
- ・思考・判断・表現及び活用・記述の重点小問について、今年度比5ポイント以上改善する。
- ・i-checkの「学習習慣」を2.90以上、「発信力」を2.90以上、「学級の絆」を3.40以上にする。
- ・学習意欲3.22、対話・話し合い3.31以上を維持し、振り返りに「次の行動」を書ける児童を80%以上にする。